日本キリスト改革派 芦屋教会 月報	2024 年 6 月号（No.436）

巻頭言 「天のはしご」

宇野 元

芦屋教会の紹介動画（「わたしの街のこの教会」Vol.84）ができました。今年 1 月下旬にメディア・ミニストリーの山下正雄先生とスタッフの I 氏が教会に取材に来られ、午後いっぱいかけて撮影が行われました。それに加えて、教会からお送りしたスマホによる動画と写真が組み合わされています。

取材日は朝から強い風が吹きすさぶ、大寒の時期の中でもたいへん寒い一日でした。最後に撮影された駅からの道案内の場面で、さまざまな表情を見せる雲がこの日の劇的な移りゆきを示しています。外で風が荒れる礼拝堂の内部の映像は、いつも以上に威厳を感じさせてくれます。

芦屋教会の礼拝の空間を大きなコンサバトリーにたとえたことがありました。玄関を入り、すこし低めの天井に設計されたロビーを通って天窓のある礼拝堂に入る。そのときの新鮮さ。木に囲まれた明るい空間。晴れた日のお昼の時間には、会衆席も床も白く見えます。曇りの日は光の籠のよう。太陽が西に移動するにつれて壁の色が濃い茶色に変わり、部屋全体が暗くなると、説教壇の真上に設けられた縦長の空間がうっすらと輝きだします。まるで光の塔のよう。あるいは光の通路のよう。ヤコブが見た、天使が昇り降りする天のはしごのよう（創世記 28,12 を参照）。

夜、冷たい地面に横になっていた。宇宙の巨大な沈黙に囲まれていた。ひとり。そのヤコブに示されたのは、永遠の天と、人生の舞台である世界をつなぐ光の道でした。そしてこれに神の言葉が伴っています。「わたしがあなたと共にいる」。インマヌエル！ヤコブは力づよく招かれます。不安や恐れや迷いをわきにおいて、勇気をもって新しい歩みをつくるように。新しい歩み――それは、自らに与えられている事柄にとりくむ歩みにほかなりません。ひとあし、ひとあし。自らの限界を経験し、それゆえに共におられる方に一層信頼して。神の言葉に支えられて。天のはしごは、現実から離れた虚空を漂うよう私たちを誘うものではありません。地に足のついた歩みにみちびきます。ヤコブはてごわい現実にむかう歩みをはじめます。てごわい現実が消えてなくなるわけではありません。けれども、人を恐れ、自らの負い目を抱えて逡巡するのをやめます。もう逃げません。弱気な心に囚われることをうしろにします。勇気と心の確かさを得る。天にかかるはしごを示されて。イエスにある罪のゆるしを知らせる言葉によって。